

# かずやしんぶん

1号



2021. 5

**こんにちはかずやしんぶんです！**



こんにちは、「かずやしんぶん」です。きょうはこのしんぶんの主役、尾野一矢さんのことをお伝えしたいと思います。一矢さんは1973年3月26日生まれ、いま 49 歳です。座間市で生まれ育ちました。一矢さんには重度の知的障害と自閉症があります。愛情あふれる両親と姉と一緒に暮らしていましたが、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました。 共働きの両親が世話を続けるのが難しくなったからです。成人してからは23歳のときに相模原 市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」



に移りました。そこで、2016年7月26日、障害者19人が刺殺される凶悪事件が起きました。犯行に及んだ男はこの施設の前職員でした。「障害者はいなくなればいい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。この事件では、職員2人を含む計26人が重軽傷を負いました。一矢さんもその一人です。何とか一命は取り留め、両親の懸命な支えで徐々に回復に向かいました。家族で昼食を共にする機会も増やし、親子の絆が一層

強くなったといいます。事件が起きた施設は建て替えられることになったため、一矢さんは横浜市港南区の仮移転先の施設で暮らしはじめました。両親はこのまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていました。重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外にないと考えていたからです。そんなある日、両親は、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで暮らす取り組みの撮影を続けていた映画監督の 宍戸大裕さんと出会います。その縁で、障害者の地域生活を支援するNPO 法人「自立生活企画」(東京都西東京市)とつながりました。「施設ではなく、地域のアパートでの生活という選択肢もありますよ」「私たちが支えますよ」自立生活企画の提案に、両親は意を強くしました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さん



のペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました(この辺りのことは、宍戸監督の映画「道草」を観ていただけたらと思います)。そこで、2018年8月から、地域生活を見据えた取り組みが始まりました。自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしました。一矢さんと介護者との間の信頼関係をつくるためです。それから2年後の2020年8月、故郷

の座間市でアパート生活を始めることができました。施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれません。それは、一矢さんに伴走する私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです(笑)。ポテトサラダ、うなぎ、総菜パン、板チョコ、缶コーヒーが大好きです。テレビで笑点を観るのも好きです。平日の日中は同じ座間市内のNPO「宝島」という作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」(一矢さんはこう表現します)でのまったりとした時間が何よりも大好きです。気分が悪いのか、部屋で大声を出してしまうこともありますが、このアパートでの生活を大変気に入っています。私たち介護者とその仲間たちはそんな

一矢さんをこれからも支え、共に生きていきたいと考えています。今後も何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、どうか温かく見守っていただければありがたいです。ちなみに、一矢さんは「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してきたら、

それはあなたへの親愛の証です。「友だちになりたい」という意思表示です。ぜひ手遊びの相手になってください(介護者が遊び方をお伝えします)。私たちはこの地域で一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っ



ています。あなたもその輪に入ってみませんか。何か面白いこと、楽しいことがこの地域で起きるかもしれませんよ。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

「私たちのことを私たち抜きに決めないで(Nothing About us without us)」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「(やまゆり園)事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え直した事はあるんでしょうか」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いままおよそ約13万人が施設で暮らしています。次回の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制づくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



一矢さんは時々横浜市緑区にある「ぶかぶか」という福祉事業所に遊びに行っています。ぶかぶかでは障がいのある人たちがパン屋、お惣菜屋、食堂、アートスタジオで働いています。ぶかぶかは「障がいのある人たちとはいっしょに生きていった方がいいよ」というメッセージを発信し続けています。地域の人たちと一緒にパン教室をやったり、一緒に大きな絵を描いたり、一緒に芝居を作ったり、

といった活動をやっています。そうやって地域の人たちとぶかぶかさん（ぶかぶかで働く障がいのある人たちのこと）のおつきあいを深めています。そんな中で「ぶかぶかさんが好き！」という人たちが少しずつ増えてきました。私たちも少しずつ地域でいろんなこと（お茶会とか、餅つきとか、地域清掃とか）をやっていきたいと思っています。そんな中で、「時々大声出すけど、こういう人も地域にいていいよね、いた方が楽しいよね」っていう人が少しずつ増えてくれるといいなと思っています。

発行 **かずやさんとその仲間たち**

〒252-0005

神奈川県座間市さがみ野3丁目2-19-101

メール [kazuya.ono811@gmail.com](mailto:kazuya.ono811@gmail.com)

Facebook “尾野一矢日記”

<https://www.facebook.com/onokazuyanikki>

HP “よってけ一矢んち” <http://ono-kazuya.com/>

発行日 2021年5月



“尾野一矢日記”



“よってけ一矢んち”